

【来賓挨拶】 小林 毅夫（上越市教育長）

皆さんこんにちは。ご紹介いただきました上越市教育委員会の教育長小林毅夫でございます。平成20年度の上越教育大学特色GPシンポジウムの開催まことに改めてとうございます。

特色GPに取り組み、内容を、成果をこのような形でシンポジウムを通して発表されることをお慶び申し上げます。私たちのようなこういったことに関心をもつ教育関係者がこうした形で寄せていただいて、ともに考える機会を与えていただいたことにも感謝申し上げます。

少なからず関わりをもちました私個人的にも興味をもって寄せていただきました。楽しんで聞かせていただきたいと思っております。

さて、世界的な金融危機が起きて時代はますます混迷を増しているわけで、このような時代だからこそ教育に対する期待が大変大きくなってきていると思います。教育は常に未来を志向して文化を築いていく使命をもっているわけでございます。苦しい時代であればあるほど教育にかける期待が大きくなってきていると思います。

そうしたことと比例して、それらを担う教育実習等を担う教員養成大学の使命もますます重大になっていると思います。今回のこの特色ある大学教育支援プログラムはそれに応えるものだと考えております。

特に大学と地域との連携という観点から申し上げますと、今日のテーマでありますように、大学と地域の協働による教員養成ということが大変大事なわけですし、地域との強い連携のもとで上越教育大学スタンダード、教育実習ルーブリックということが作成されてきたわけですが、今回シンポジウムでその詳細を伺うことになるわけですが、地域の学校教育と深く結びついたカリキュラムの内容に深く関心をもっております。

今日多くの学校関係者もお世話になっておりますが、たくさん考えさせていただきたいと思っております。

そしてこれらのカリキュラムによって上越地域の学校教育が実習の場を提供するということになるわけですが、単に実習の場を提供するというだけではなく、私ども上越市の、あるいは妙高市の教育の現場が活性化しているということにもつながってくることだと思ってい

ます。教育現場には常に新しい課題が押し寄せて、ある意味ではパンク状態になっているわけですし、その解決に追われているわけですが、その現場に大学から新しいシステムを入れていただくことは大変ありがたいことだと思っております。

そして教育実習は教育実習、臨床的研究は臨床的研究、地域貢献は地域貢献というふうにそれぞれがばらばらに行われることではなくて、教育実習を通して臨床的研究や地域貢献を有機的に結びつけることにより互惠関係が生まれ、より実ある成果が期待されているものと思っています。

まずはこれまで研究を進めてこられました教育関係の皆様方に敬意を申し上げ、感謝を申し上げて、本日のシンポジウムの成功をお祈りして挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございます。よろしく願いいたします。



総合司会の阿部靖子教授
（上越教育大学）